



今回は 探究活動を生かした進路実現 その10 の報告です。

◇ 市原奈々加さん（岐阜薬科大学薬学部）の体験記！

おもな活動記録

- ・2018年度岐阜県スーパーハイスクールセッションに参加。グループリーダーを務めた。
- ・スーパーハイスクールセッションとは

岐阜県では2016年より県指定のスーパーハイスクール校の生徒の意見交換や交流の場を設定し、生徒同士の連携を促進することにより、互いの研究成果をより一層発展させることを目的として、岐阜大学地域協学センターとの共催で、スーパーハイスクールセッションが開催されています。

私は、推薦入試Aで岐阜薬科大学に合格し、この春、夢を叶えるためのスタートラインにたちます。この度、関高校での活動を私の第一志望合格に生かすことができました。この経験を踏まえ、関高校でのSGH活動やそれに伴う活動の重要性を伝えられたらと思います。また国公立大学の推薦入試について、私の経験を踏まえた意見なども述べられたらと思います。

SGH活動

私は、2年生の時、先生の勧めなどもあり、SSS（スーパーハイスクールセッション）という活動に参加しました（写真参照）。SSSとは岐阜県内のスーパーハイスクール指定校の代表生徒が一堂に会し、岐阜県が抱える諸課題について課題解決を行うものです。この活動は簡単に言えば、規模を県規模に大きくしたSGH活動です。この活動では岐阜高校などの他の普通科高校から岐阜農林高校などの専門科を持つ高校の生徒が集まったため、関高校というひとつの高校だけで行うSGH活動ではできない経験をすることができました。



このSSS活動で私たちのグループは「移住・定住」に関する課題解決に向け意見を出し合い課題解決のための提案を県庁の方などに行いました。この活動を通して私は二つのことを学びました。一つ目はいろいろな視点から物事を考える重要性、二つ目は自主的に動く・考えることの重要性です。

先ほども述べたように様々な高校が一堂に会し活動したため、SSSでは普段の視点以上の視点で一つの課題を考えるためたくさんの意見が出ました。専門科ならではの専門的な意見など普通の高校生活では考えられない意見などがありました。さらにこの活動では、県庁の方、岐阜大学の教授、学生の方の意見を聞くことができ、いろいろな立場からの意見を聞き、さらに自分自身の意見を深められたとともに、グループとしての意見を深めることにつながり提案がよりよいものになりました。このことからいろいろな視点から物事を考える重要性をより学ぶことができました。それと同時に自分自身の考え方の幅を広げることができました。

私は、この活動で他の生徒が自分にはない考えを持っていないことに圧倒されてばかりで、はじめは主体的に動けませんでした。しかしこの貴重な経験を受け身な姿勢で終わらせてはいけないと思い、グループリーダーに立候補しました。そして様々な視点の意見が出る中で一つの意見を提案にすることは困難だったがリーダーとしてその役目を果たすことができました。

与えられた課題そのものは、直接進路に関係するものではありませんでしたが、この経験を問うて学んだことを自身の進路実現に利用することができました。

私はこの活動で学んだことを生かし、一人で薬学に関する課題を見つけ、それに関するフィードバックを行い、薬学に関する問題についてより考えを深めることができました。

関高校でのSGH活動やそれに伴うSSSの活動はあくまで主体的に考えたり動いたりする練習をするために与えられたものであり、そこで学んだことを生かし、主体的に考え動くことで初めてSGH活動は意味を成すものだと思います。「数学・化学の勉強がしたい!」「SGH活動時間も自分のやりたい勉強がしたい!」と思う人もいるかもしれませんが、せつかく学校の授業時間として与えられたものなので自分自身を高めるために最大限に有効利用してほしいと思います。

自分自身を高めるだけでなく入試など直接関係しないような思わぬ場面でこの経験が生かせることもあります。私は、面接の際にSSSでの経験を通して学んだこと考えたことを述べ自分自身の価値を大学側に伝え、自身をアピールすることができ、SSSでの経験も評価され合格できたと思います。

国公立大学の推薦入試について

私が行った推薦はセンター試験を課さないものだったためこの推薦方式を利用した・合格した先輩方が少なかったため情報が少なかったのでここで述べることで少しでも力になればと思います。

国公立大学の推薦入試を少しでも考えている人に声を大にして言いたいことは、「本当に行きたい、この大学以外考えられないと思う人以外は推薦入試を利用するな!」です。私は岐阜薬科大学以外考えられないぐらいこの大学に行きたいと思っていました。なぜなら、この大学で学ばなければ私の夢を叶えられないと思える特徴・魅力がこの大学にはあったからです。どうしてもこの大学に受かりたいと思い、大学側から与えられているものは最大限利用しようと考え推薦入試を受けようと決意しました。この入試方式で受かる保証はどこにもないため推薦入試まではセンター試験対策に時間が割けない、また過去数年関高校から合格も出ていなかったためリスクがとても大きい入試だったと思います。しかし推薦入試を受けようと決意できたのは異常なまでの岐阜薬科大学に行きたい気持ちがあったからだだと思います。その気持ちがあったからこそ周りがセンター試験に向け準備を進めているなか自分だけが全く異なる勉強、面接練習に時間を割いてもこの時間はすべて第一志望合格に使われているから焦る必要はないと前向きに考えることができ、万全な体制で入試に臨めたと思います。合格したから言える結果論でしょと言われるかもしれませんがあの推薦入試のおかげで第一志望への思いはさらに増したし、面接力、化学・英語の二次力はかなりつけられたので有効利用できたかと思います。

このことからせつかく関高校で学ぶのならば素晴らしい方々(友人はもちろん先生、先輩、後輩など)の様々な視点からの意見をまずはたくさん聞き入れてほしいし自分に取り入れ自身を高めてほしいです。また与えられたものが自分にとってよりよいものになるように考え最大限有効利用してほしいと思います。受験勉強はとっても辛いですが確固たる目標・目的さえあればつらいだけではない受験期を送れると思います。

